

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891600112		
法人名	株式会社スマイルサポート		
事業所名	グループホームにこにこ		
所在地	656-2401 兵庫県淡路市岩屋2942-35		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成26年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我が家のように心地よく快適にすごしていただけるよう安全、安心に配慮した環境を提供するとともに、また、入居者の今ある能力を見極め、潜在的な素晴らしい力を引き出しながら、できることはご自分で行っていただくよう、見守る、待つことを大切にし、各職種が連携しあって、希望・要望に沿ったサービス提供に努めています。また、クリニックが事業所と隣接しており、主治医、看護師に日々の健康管理を行っていただき、体調変化が見られた際は、その都度、指示、助言をいただいている。また、入居者様の看取りまでの支援をさせていただいているので、終末期には、ご家族様、主治医、看護師を交え、その方にとっての一番の望みの終末の実現に向けて取り組んでいる。地域との交流の面では、地域行事・イベントへの参加は積極的にを行い、ボランティアの方の協力のもと、事業所でのお茶会の開催や、納涼祭等では地域住民の方を招いたり、地域とともにある施設を目指して取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①「理念」を軸にしたアットホームな運営・理念「1 見極める(知る)支援 2 見守る支援 3 引き出す支援 4 待つ支援 5 連携する支援」を軸に、入居者が「我が家のように心地よく、笑顔でいきいきと安心して暮らせる」よう職員一同がその実践に向けて取り組んでいる。②暮らしを楽しむ・日々の暮らしの中の楽しみ事を多く演出しており、入居者は自分の好きなことに参加し有意義な時間を過ごしている。(習字、陶芸、フラワーアレンジメント、お茶会、生け花、体操、カラオケ、マジックショー、外食ツアー、地域行事参加、屋外喫茶・野点、遠足等)③家族との協同・納涼祭等の行事、日々の暮らしの中での台所仕事や縫い物、通院同行等、様々な場面で家族とともに入居者をサポートしている。④安心な医療支援・隣接するクリニックがグループ法人であり、看護師による毎日の健康管理(24hオンコール体制)、月2回の院長の往診、看取りまでの対応並びに常時医療処置を必要とする方への支援も可能な事業所である(人工透析の方は除く)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)(アンケート4)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)(アンケート1)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)(アンケート6)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)(アンケート10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)(アンケート7)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (アンケート11)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)(アンケート8)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (アンケート12)	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)(アンケート5)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を毎日朝礼時に参加職員で唱和し、職員全員で共有できるよう努めている。常に意識することで、自然に仕事の中で活かせるように取り組んでいる。	入居者個々人が「我が家のように心地よく」「笑顔でいきいきと安心して暮らせるように」、全職員が同じ目線とベクトルで日々の暮らしを支えるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(まつり、イベント、文化祭等々)へ積極的に参加している。また来ていただく事の取り組みとして月1回のお茶会や納涼祭等の開催時には近隣の方々等への参加を市の広報等で呼び掛けている。	自治会や民生委員との連携が強く、地域・事業所双方の開催行事に参加しあい交流を深めている。園児・児童とのふれあい、トライやるウィークの受け入れ、ボランティアの協力等、地域の中での生活が実現されている。	地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職業体験の受け入れや看護学生の実習受け入れ等を積極的に行い、事業所の様子や取り組みを理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村担当者・自治会代表・民生委員・ご家族様に対し会議資料を作成し事業所の運営状況等や利用者様へのサービスについてはケアプラン等を用いて説明している。また意見交換の場で質問や課題の検討をしている。	入居者・家族、市職員・地域包括支援センター職員、地域代表がそれぞれ数名づつ参加し、事業所情報の共有だけでなく、ケアの実態や安全面・衛生面、看取り介護、地域交流について多くの意見交換等を実施してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度に関する提出物や質問・疑問点等についての相談させていただいている。県等からの通知やその他連絡事項についてもメールや電話でやりとりを行っている。	運営推進会議や地区の地域包括ケア会議を通じて市職員、地域包括支援センターとは連携している。困難事例や見守り推進等、地域の認知症高齢者支援にも協力して関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議内で勉強会を設け、身体拘束マニュアル等の資料をもとに禁止行為、身体的、精神的弊害等、職員が理解した上で事業所でのサービスに活かせるように学ぶ機会をつくっている。	職員は、事業所内研修・勉強会を通じ「身体的拘束等の弊害」について十分理解しており、さりげない見守りを意識しながら入居者の行動を抑制することのない支援を実践している(夜間以外は玄関口は解錠)。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議内で勉強会を設け、高齢者虐待に関しての防止法施行の経緯、事業所としての責務等を学び、また職員とのコミュニケーションを密にとり心身の様子等相互に観察しあっている。	事業所内研修・勉強会により高齢者虐待の防止はさることながら、「不適切なケア」のレベルからの排除に取り組んでいる。職員のメンタルヘルスについては、個別面談(適切な者が対応)、コミュニケーション重視で対応している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者に関しては日本社会福祉士会の成年後見制度の研修を受け、パートナー兵庫にも登録しているが、他職員に対しての勉強会等の実施には至っていない。今後は勉強会を設けていきたい。	現在は活用している方はおられない。管理者がその制度活用に関する専担者となっている。制度の活用が認知症高齢者への支援の一方策であることへの理解は職員間で共有できている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて事業所の運営内容、サービス内容等の説明を十分行い、質問、疑問点にも答え、十分理解していただいた上契約を行っている。	契約前に見学、質疑応答等により疑問・不安感がない状態にして契約している。契約時には関連書類を丁寧に説明し(重度化・終末期への対応方針も)、理解いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、近況報告等を行いながら、要望等について伺っている。また現状では家族会を年1回開催し、参加いただいた方から意見・要望を募っている。今後は2回の開催を検討している。	運営推進会議、家族会、行事参加、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会により意見・要望等を聞き取っている。頂いた意見等へは事業所運営に活かすよう検討し、必ずフィードバックしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティング、各委員会等において意見、提案いただく機会を設けている。また、不定期ではあるが、職員一人ひとりと面談し現在の本人の考え等を伺っている。	全体職員会議(月例)や委員会(環境、ケア、行事等)において、職員が主体的に課題を検証する体制となっており、ボトムアップの組織風土が醸成されている。また、個人面談(レビュー)も適宜実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに年間の目標を定めてもらい、普段の勤務状況や能力、目標の達成度等を勘案しながら、管理職者が評価を行っている。評価をもとに給与等にも反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修参加を推進し希望があれば勤務調整等を行いながら、研修に参加いただいている。また施設内での勉強会を職員に担当させて概ね月1回の開催で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会への参加し近隣の事業所の方との意見交換、情報共有を行っている。そうした中で出来た関係性をもとに見学の機会をつくり学んだことを事業所サービスに取り入れている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定が近づいてきた方に対し、事前訪問を行い、本人様に困りごと、本人の希望等について十分に話しを聞いて、事業所で受け入れる前に対応策を十分に検討している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予定が近づいてきた方に対し、事前訪問を行い、家族様の入居に対しての質問、要望を聞きとり、事業所で行えるサービス内容を十分に理解していただき、サービス方法を一緒に相談している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーを交え、本人様、家族様の状況に対し十分に話し合いを行い、当事業所でのサービスが必要であるということを皆が納得した上で、入居を提案している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者様ともども、事業所ではなく、自分の家だと思って過ごしてほしい。そういった思いを職員、入居者様と日頃より話しをしながら、共に生き生きと生活していただくよう支援している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方ともコミュニケーションをしっかり取って、いつでも気軽に面会に来ていただきやすい雰囲気づくりを心掛け、一緒に支援していく気持ちを持っていただいている。		
20	(11) ○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や行きつけの美容院、また外出支援の中で本人の行きたい場所等を伺い、実現させてきている。ご家族様も協力的な方が多く、外出の機会をよくつってくださっている。	家族との外出(買い物、食事等)・外泊、友人・知人の来訪、手紙やはがき、電話、入居前の居住エリアへの外出等、今までの生活感ができる限り継続できるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常会話でも職員が間に入ってコミュニケーションがとりやすい環境をつくったり、逆に入居者様同士で話すタイミングもつくりながら、関係構築に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合でも、他のサービス提供事業所への情報提供を行っている。また、家族へのケア、フォローをしている。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの今まで生きてきた歴史、性格、環境等の生活背景等の把握に努め、しっかりとコミュニケーションをとる中で本人の意向・要望をくみ取るようにしている。	日々の暮らし(言動や会話、仕草・表情等)の中から入居者個々人の思いや意向を汲み取っている。入手した情報はセンター方式の書式や申し送りノート、管理日誌、ミーティング(毎日2回実施)により情報を共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様からの話しだけでなく、周辺で関わりのあった家族様や介護サービス提供事業所、ケアマネージャー等より情報収集に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供の中での関わりの中、日々の状態把握、変化時の本人の思いや意向の変化にも注意し、職員と連携して情報把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の日々のサービス提供の中で、本人のご様子、状態の変化を記録し、ご家族様との情報や思いを反映しながら、カンファレンスを通じて介護計画作成を行っている。	入居者の思い・意向、家族の要望に医療関係者・居室担当者等の意見を踏まえ有用性の高い介護計画を作成している。入居者の現況確認(カンファレンス)は、毎日実施している。	一人ひとりの介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を各種記録様式に記載し、朝礼、昼ミーティング時等において申し送りを行い、職員全体での情報共有に努め、保管している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接しているクリニックとの密な連携をとり、相互に協力を行っている。また、地域連絡会等を通じて近隣サービスの把握、情報交換を行い、連携を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保健センターでの地域の方々の集まりに参加する等積極的に外出に取り組み、事業所内でも納涼祭、お茶会等のイベントを企画しボランティア、近隣住民の方の参加を呼び掛けている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、受診希望の医療機関を検討しているが、基本的には隣接しているクリニックで希望されているので、往診、24時間の連絡体制、看護師による健康管理等にて対応を図っている。	協力医(内科:隣接のクリニック)による往診(月2回)及び緊急時の24hオンコール体制により健康管理が行われている。また、歯科・眼科の訪問診療も導入している。通院受診は家族と協働している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているクリニックと連携を図っており、看護師を派遣していただき、日々の健康状態の管理や主治医との連絡調整等協働して対応にあっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ご家族と密に連携をとり、今後の方針、意向を聞き取り、医療機関も交えながら、退院まで継続して支援している。定期的な病院への面会で本人様の状態の変化や情報把握に努めている。	入院中は入居者の不安感を軽減するため頻度を上げて面会(2人以上で)し、病院・家族とも連携を密に情報を共有している。早期退院を前提に退院時には予後に不具合が生じないよう詳細な情報を得ている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針にて入居時に対応・支援方法の説明をさせていただいている。また看取りまでの支援を前提としているので、クリニックと連携して行えることも含め説明している。	重度化・終末期への状況が生じた場合には、入居者ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人、家族、医療関係者、事務所等)で相談・検討しすすめている。この1年で3名の方を看取らせていただいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や事故対応のマニュアルを整備し、資料の配布、勉強会の開催等にて学ぶ機会をつくるとともに、隣接のクリニックと密に連携し異常時等は迅速に報告、指示をいただいている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施にて、避難方法、迅速な通報や対応等の確認を行い、隣接のクリニック職員を交えた訓練にて協力体制を敷いている。	年2回の消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を隣接のクリニック(グループ法人)職員も交えて実施している(消防署の立会い有り)。次回以降、地域消防団の訓練参加を予定している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、職員の言葉づかいや声かけの方法について朝礼や全体会議等を通じて職員に繰り返し話しをしている。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に配慮しながら今まで培ってこられた能力(技能や趣味等)が維持・継続できるよう支援している(ミシンがけ、木の工作物作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理等)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のコミュニケーションの中で、さりげなく本人様が考えていたり、望んでいることの把握に努め、実現に向けて本人様やご家族様と連携し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての活動や日課の流れはあるが、本人様のご様子や意向を優先し、あせらず本人のリズムやペースの中で生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服等について、ご自分で選択できる方は選んでいただき、希望される方は衣服、化粧品、乳液等を一緒に買い物に行く等の外出を行っている。美容院もご希望の場所に行っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で野菜の皮を剥いてもらったり、味を見てもらう等の手伝っていただいている。また、食事後の食器、お盆拭きは定着している。	食事の下拵え(包丁、皮むき等)、下膳や洗い物等、個々人ができる部分を職員と会話を楽しみながら一緒に行っている。庭での収穫物も食卓に上る。外食や出前、イベント食、手作りおやつも楽しみ事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量、水分量のチェックを行っており、主治医からの指示等にて食事量や水分量に関して注意が必要であったり、制限がある方は申し送り時に都度報告し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。支援が必要な方には声かけ、誘導、能力に応じ介助を行い、終了後は記録している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンの把握、都度のトイレ誘導、介助等を行っている。また本人に応じた物品の選定等に努めている。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、出来るだけトイレでの排泄が実施できるよう支援している。おむつの方へはご本人が不快に感じないように介助している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動、体操等に努め、随時の水分補給を促し、自然排便を促している。また気になる入居者様に対しては主治医、看護師と相談し対応している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を伺い、入浴を希望されない方には日程や時間調整を行っている。また季節感等を感じていただくため、ゆず湯、菖蒲湯また温泉の素的なものも使用している。	週2～3回の入浴を基本に、ゆっくりゆったりと入浴時間をすごせるよう支援している。昔話に花が咲くこともしばしばある。入浴剤や季節湯(ゆず湯、菖蒲湯)も喜んでおられる。機械浴も設置している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のペースで休息、就寝していただいている。ベッド周辺環境整備についても各担当が行い、定期的なシーツ交換、布団干し、日々の清掃を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の一覧はファイルにして保管しており、必要時とりだして皆が確認できるようにしている。また、薬の変更時は申し送りにて報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片づけ、洗濯干し、洗濯たみ、日々の清掃等、その方に応じた内容を、提案しながら、納得いただいた上で一緒に行っている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や本人希望の買物の実施、また本人様が行かれていた美容院、地域の場所、珍しいところでは競艇場や釣り、本人様が働いていた場所や喫茶店へ行く等、希望に応じて出来るかぎり行っている。	散歩や買い物、草花・野菜への水遣り等、外気に触れる機会は常態となっている。地域行事や幼稚園の餅つきへの参加、だんじり見学や遠足、野点等、適度な刺激となる非日常も上手に取り入れて演出している。	個々の入居者のADL状態に応じた個別支援(外出)を今後も継続して頂くことに期待をします。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方については、支払い等できるだけ本人様に促して行ってもらおう。職員は横について必要時支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話等を希望された際は、その都度対応している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、環境整備にて心地よい空間づくりに配慮し、季節感を感じていただけるような、雰囲気、飾り等を行っている。居室清掃については、日々の清掃と各担当がチェックしている。	季節を感じる玄関口(季節の花や飾りつけ)、吹き抜け様式の両ユニットが合体できる広いフロア(ステンドグラス、ピアノ、油絵、季節飾り等が明るさのなかに落ち着きを感じさせる)。戸外のテラスや椅子は憩いの場となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内の廊下、リビング内のいたるところにソファや椅子を配置し、一息つけたり、休息できる場所をつくっている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様と相談しながらテレビの配置、家具の位置等を確認している。馴染みのあるものを家族様に依頼して持ち込んでもらっている。	使い慣れた馴染みのもの(筆筒、家具、テレビ、写真、お人形、仏壇等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している(畳敷きの部屋あり)。また、ADLの変化へも配慮し家具の配置等も工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り本人の能力を活かして、日常生活を営んでいただいている。		